

2026年6月1日

各 位

会社名 科研製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 堀内 裕之
(コード番号 4521 東証プライム市場)
問い合わせ先 広報IR部長 亀津 学
(TEL. 03-5977-5002)

「KP-483」非臨床試験及び第I相試験結果の発表について
—American Society of Clinical Oncology (ASCO) 2026にて発表—

科研製薬株式会社(本社:東京都文京区、社長:堀内 裕之、以下「科研製薬」)は、「KP-483」の非臨床試験と固形がんを対象疾患とした国内第I相試験の結果が American Society of Clinical Oncology (ASCO) 2026 (開催:米国 シカゴ、5月29日~6月2日)において発表されましたのでお知らせいたします (Abstract No.2659. Preclinical investigations and first-in-human phase I trial of KP-483 in solid tumors: safety, antitumor activity and preliminary efficacy)。

本第I相試験は、固形がんの患者を対象とする3+3用量漸増デザイン試験です。50 mg から800 mgまでの各用量にてKP-483を1日1回経口投与された際の安全性と予備的な薬物動態及び有効性(固形がんの治療効果判定のための新ガイドライン「RECIST v1.1」により評価)について検討することを目的に実施しました。また、非臨床試験としてin vitro活性値及び担癌マウスでの効果を検討しました。発表された結果の要約は以下のとおりです。

非臨床試験

- KP-483はin vitroにおいて高いEP4アンタゴニスト活性を示しました
- 担癌マウスモデルにて、KP-483は単剤で用量依存的に抗腫瘍効果を示しました
- 担癌マウスモデルにて、免疫チェックポイント阻害剤(ICI)とKP-483を併用することで、ICIあるいはKP-483単剤での効果を上回る抗腫瘍効果を示しました

国内第I相試験(jRCT2031220311)

- 安全性:いずれの用量でも用量制限毒性(DLT)はみられませんでした(19例)
- 薬物動態:KP-483の $T_{1/2}$ は7.9~12.8時間でした
- 有効性:最良総合評価*は、SDが4例、PRが1例でした

*最良総合評価は、次の4段階に分類されます。

| 判定区分 | 英語表記 | 定義 |
|------|--------------------------|--|
| 完全寛解 | CR (Complete Response) | すべての標的病変が消失した状態 |
| 部分寛解 | PR (Partial Response) | ベースライン長径和と比較して、標的病変の最長径の和が30%以上減少 |
| 安定 | SD (Stable Disease) | がんが消失も増大もせず、ほぼ変化がない状態 |
| 進行 | PD (Progressive Disease) | 治療開始以降の最小値と比較して、標的病変あるいは新規病変の最長径の和が20%以上増加 |

以上

(参考資料)

KP-483 について

科研製薬が創製した経口投与可能な EP4 アンタゴニストで、強力かつ選択的に EP4 阻害作用を示します。EP4 を阻害することで、がん細胞が免疫から逃れる仕組みを阻害して、免疫細胞を活性化させて抗腫瘍効果を発揮します。既存のがん免疫療法との相乗効果が期待されています。

注意事項:

このニュースリリースに記載されている当社グループの事業に関する将来の見通し等の記述は、現時点で入手可能な情報から予測したものであり、今後の様々な要因により実際の結果とは異なる可能性があります。また、このニュースリリースに含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する記述は、宣伝、広告等や医学的アドバイスを目的としたものではありません。